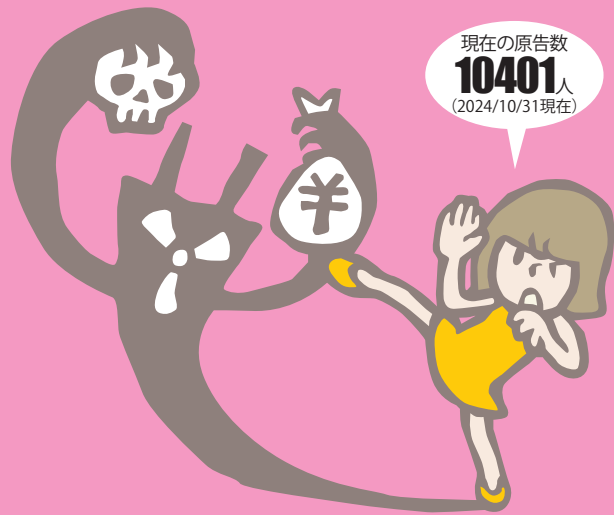


原発なくそう! 九州玄海訴訟 NEWS

発行元 2024.Oct
「原発なくそう!九州玄海訴訟」
原告団・弁護団 Vol.47

〒840-0825 佐賀市中央本町1-10 ニュー寺元ビル3階
佐賀中央法律事務所気付 TEL0952-25-3121/FAX0952-25-3123



第47回 口頭弁論を終えて

原発なくそう!九州玄海訴訟弁護団共同代表 花島 敏雅

裁判では、長崎県対馬市で活動する「核のごみと対馬を考える会」の代表の上原正行さんが意見陳述をされました。原告弁護団は、文献調査の受け入れを拒否した対馬市の比田勝市長に影響を与えた「核のごみと対馬を考える会」の活動に学び、連帯す

るために意見陳述をお願いしていたものです。

核のごみの最終処分場は数十年余の原発の稼働期間に比べて、核ごみに人が近づけられるようになるまで10万年以上も地中300mの地下処分場に保管し続けるものです。今を生きる人類が責任を持てる問題ではありません。

核のごみは原発の運転を続ける以上、毎年大量に発生し積もっていくものです。現在は原発敷地内の使用済み核燃料プールに保管されていますが、そのプールも容量の限界にきています。原発が「トイレなきマンション」といわれるゆえんです。政府は最終処分場候補地探しに躍起になっていますが、受け入れることは出来ません。処分場の断念は原発の廃炉と密接不可分です。私たちは運動面でも原発廃炉をめざして、会の皆さんと連帯して行きたいと考えています。

第47回
口頭弁論

東島弁護士の ココがポイント!



原告側は準備書面113・114を提出しました。“玄海原発周辺での白血病死亡率が、時間的には原発稼働後に増加し、その増加率が玄海原発に近いほど大きい”との原告の主張に対し、九電は、①通常運転での放射性物質の放出量(実効線量)は基準値よりも低く抑えられている、②ヒトT細胞白血病ウイルス感染での影響などと反論していました。113で当方は、白血病罹患に放射性物質被ばくの閾値はないので①は理由とならないし、ヒトT細胞白血

病ウイルスによる死亡は九州地方一般に多かったところ、玄海原発稼働後の玄海原発からの距離による死亡率の増加率が異なるなど再反論しました。

114では、国の“設置基準規則の重大事故対策で汚染水対策をしている”との主張に対して、“同規則は炉心を冷却するための必要な設備や手順を定めるものに過ぎず、地下水や雨水による汚染水事象に対して対策を定めるものではない”と反論しました。

他方、国は、準備書面24で、火山の巨大噴火についての原告の主張に反論しました。

目次 Contents

口頭弁論を終えて・ココがポイント……………1
第47回意見陳述書(上原 正行さん)……………2-5

デブリの試験的取り出し開始……………6
自由の森学園(埼玉県)、研修旅行……………7
傍聴レポート・今後の日程等……………8

意見陳述



上原 正行さん(核のごみと対馬を考える会代表)

1 私の身上・経歴

(1) 私は、原告の上原正行です。私は、昭和20年1月26日、長崎県対馬市巖原町(旧 下県郡久田村)豆酸瀬138番地で生まれました。

(2) 現在、私は、95年続く農水産加工業3代目の家業の傍ら、国境の島である対馬において、対馬の核のごみ文献調査受け入れ問題を考える市民団体である、「核のごみと対馬を考える会」に所属して同会の代表を務めさせていただいております。

2 対馬の“島の宝”

その様な私が、玄海原発稼働差止等請求訴訟の原告にならせていただいた理由を述べさせていただきます。そのためには、まず、対馬の自然・歴史そして社会について知ってもらいたいと思います。

(1) 対馬の“自然”

対馬は南北82キロメートル、東西18キロメートル。その延長は915キロメートルにもおよびます。1968年(昭和43年)に壱岐対馬国定公園に指定され、島の面積の約17%が国定公園に指定されています。

国の天然記念物のツシマヤマメネコをはじめ、対



馬でしか見るることのできない生物や大陸系の動植物が多く生息しています。

(2) 対馬の“歴史”

過去の対馬における国策への反対の歴史として、一人の人物がおります。その名は対馬4聖人(他の3聖人は宗助国、賀島兵介、雨森芳洲)の一人とうたわれた陶山訥庵先生です。元禄13年(1700年)今から320年余り前の話です。時の将軍は5代将軍徳川綱吉で『生類あわれみの令』が公布され犬でもあやめると切腹の時代に、陶山訥庵先生は、15歳の時から田地畑荒らす猪や鹿をどうにかしないとこの島は大変なことになると思い続けました。40歳の時に郡奉行(今で言うと県知事)に抜擢され、9年間で猪と鹿8万頭を退治したおかげで今の対馬があるのです。

このことは、現代の私たちにとっても重要な教訓を与えてくれます。たとえ国策であっても、それが本当に住民にとってよいものであるのか、未来のためになるのか、徹底的に議論することの必要性をあらためて認識させられます。

(3) 対馬の“知恵”

離島振興法の慈父ともいわれた宮本常一氏は、対馬には『寄り合い』という現地民主主義があるのではないかと言いました。対馬は、国難に襲われるたびに『一人でやらなければならないが一人では何もできない』、ここに生まれたのが『寄り合い』です。『寄り合い』は納得のいくまで激論を交わし、多数決ではなく、何時間も何日もかけて合意形成の醸成を図るといって『対馬民主主義』です。

歴史的にも、地区毎の『寄り合い』は、「佐須党」、「巖原党」、「松浦党」等、各地で『党』ができ国難に備えました。『党』の原型は対馬の『寄り合い』にあったといっても過言ではありません。

『寄り合い』と言う対馬独自の合意形成の仕組みは、住民一人ひとりが自分の意見を持ち、責任感を持って地域社会に関わってきた歴史の物語です。

風向明媚な先祖代々受け継いで来た自然と、人情豊かな島民性こそが対馬のかけがえのない財産であり、これが対馬の“島の宝”なのです。

3 対馬と文献調査

(1) 文献調査のうごき

2023年4月対馬市商工会主催でNUMOによる「『文献調査』に関する説明会」が島内4カ所で開催され、約100名が参加しました。そこでの内容は「対馬の活性化のために文献調査受入れについて、議会に慎重な判断を求める」という説明に終始しまし



たが、特に豊玉会場に集まった会員からのやりとりは反対意見が多くありました。

2023年3月5日「核のごみと対馬を考える会」を再構築(代表 上原正行)し、対馬市の最終処分場誘致を阻止するための署名活動を展開しました。賛同署名数は2023年10月24日現在で島内8,746筆、島外18,056筆 合計26,802筆となっています。対馬の島内人口が2万7000名ほどで、有権者数が2万3700名ですから、8,746筆という反対署名は大変大



きなうねりとなりました。

6月10日に、市の中心地である巖原町で530名が集まり「ストップ核ごみ! 決起集会」を開き、漁協青年部や女性代表から反対の決意表明をしました。集会後には50年ぶりに市内中心部でのデモ行進を実施しました。

また、9月10日には、市議会 9月定例会での議決



に向けて、「対馬に核のごみはいらない集い」を中対馬の豊玉町で、580名を超える多くの市民や、賛同する

国会議員、市議会議員が参加をして開催し、漁業関係者や市民代表から力強いアピールがありました。

これらの集会の告知チラシを、全島に数度新聞折り込みやポスティングをし、「STOP核ごみ」の缶



バッジ800個を販売しカンパを訴えました。また、広報車を仕立てて3日の日程で全島をくまなく走らせ、島内の各地区で多くの市民から

運動への共感をいただきました。

(2) 私たちが、「核のごみと対馬を考える会」を再度立ち上げた理由

ア 核のごみの恐ろしさ

ガラス固化体にされた高レベル放射性廃棄物は極めて高い放射能を出し続け、その側に人間が立つと約20秒で即死するという物体です。安全なレベルになるまで何万、何十年という気が遠くなる歳月の間、隔離する必要があると言われています。この非常に危険な物体をどのように処理するつもりのでしょうか。最終的に地下300mの地盤に埋める「地層処分」が最も現実的であるという結論に至りましたが、これは到底容認できません。

一般的に、放射性廃棄物の処分方法が明確化されていない現状は『トイレなきマンション』と表現されています。

イ 確かに、「文献調査」は、手続き的には、第1段階にしすぎません。しかし、政府が、そんな軽い気持ちで対馬を「文献調査」の候補地としたわけがありません。私は、既に政府は、対馬を最終処分場の最優先候補地として高い確率で決定していると推測しています。

(3) 市議会の議決

対馬市議会は、2023年(令和5年)9月12日、商工会・建設関係4団体が提出した文献調査受け入れ促進の請願について、議長を除く18人で採決し、賛成10、反対8の賛成多数で採択しました。一方、漁



協や市民団体など6団体が提出した文献調査反対の請願は不採択になりました。

(4) 市長の決断

9月27日定例会最終日、比田勝市長は丹田から声を搾り出し、風評被害などデメリットが大きく、『市民の分断が起こっており、合意形成が不十分』など五つの理由で、選定の第1段階となる「文献調査」を受け入れない意向を力強く表明しました。

私たちは、あらかじめ用意した手作りの「市長は文献調査受け入れ反対」の号外チラシを傍聴席で配布して、皆から歓声が沸き、目には涙、手と手を取り合い、抱き合いました。1700年に国策に反対して対馬の領民を守るために猪鹿8万頭の退治実績を残してから、ついに第二の「陶山訥庵」の誕生となり対馬の歴史の1ページに後世に残す瞬間に立ち会えたことは本懐です。



(5) 対馬市長選挙では

2024年(令和6年)3月3日の市長選挙で得票数13,306票、得票率88.52%という圧倒的多数で市長



に再選されました。

(6) 現在及びこれからの私たちの運動

文献調査に入っているのは現在、北海道の^{すっつ}寿都町と^{かもえない}神恵内村と佐賀県玄海町の3自治体です。候補地を増やしたい政府は、最終処分場選定に向けた基本方針の改定を閣議決定し、「政府の責任で取り組む」と明記するなど関与を強めています。

私たちは、2025年(令和7年)5月に行われる対馬市議会選挙において、市議会のなかに「核のごみは持ち込ませない」議員の拡大を図り、最終的には「最終処分場持ち込み反対条例」(仮称)を議会で採択することを目指しております。

4 原告になった理由

この様に、「文献調査」に反対する対馬市民の私が、何故、玄海原発稼働差止を求めるのかという、理由を述べさせていただきます。

私は、最終処分場の建設に反対する前提として、そもそも、核のごみを生み出す原子力発電所の稼働停止が不可欠と考えるからです。すなわち、自分たちは原発の作る電力を利用して快適な生活を享受しながら、原発が稼働することにより必然的に発生する核のごみの最終処分場の対馬への建設反対だけを訴えるのでは、単なる地域エゴでしかないと考えます。それどころか、核のごみの最終処分場の対馬への建設反対という私たちの運動に対して、日本全国の人々の共感・支持を受けることはできないでしょう。

私は、原子力発電所の稼働に反対する全国の人たちと一緒にこそ、最終処分場の建設を阻止することができるのだと考えています。その手始めが、私たちの対馬に最も近いところに位置する、この玄海原子力発電所なのです。私は、玄海原子力発電所稼働差止を求める人たちと一緒にするために、この訴訟の原告となったのです。

5 最後に、私が裁判所へ求めること

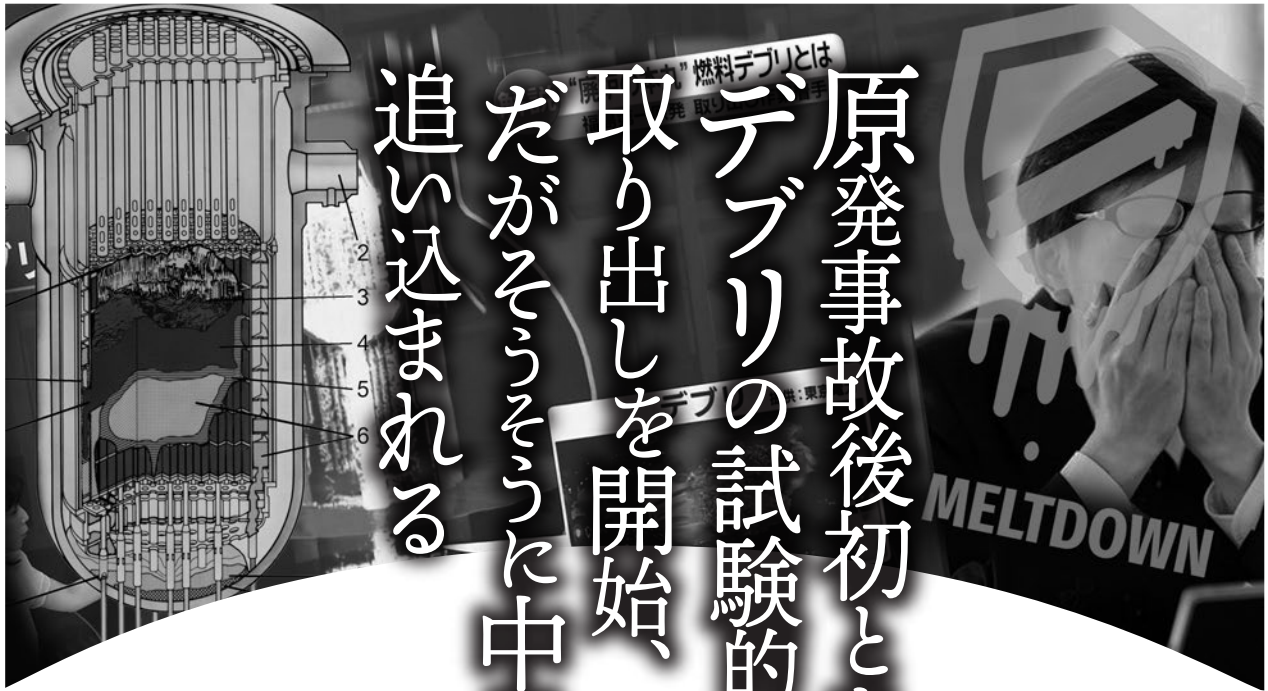
1274年の元軍襲来(文永の役)の際、対馬国の守護代であった宗助国公(そうすけくに)は、蒙古軍3万の軍勢に対し、80余騎で立ち向かうという国難と戦い、750年前から国と対等以上の事を成し遂げられました。

政府省庁・NUMOの今のやり方は、国策を盾に取り、原子力政策について国会での踏み込んだ議論もなく、地方議会での多数決による判断を基に住民に押し付けていると言っても過言ではありません。

原子力政策そのものについて、「倫理学・哲学・人類学・社会学・心理学・生命学・宗教学・軍事学・地質学・失敗学」等々多くの分野から、横断的(横串し)検証を重ね、もっとオープンに国民的、科学的に徹底した議論を行うべきです。

司法機関は、「法原理」に則り、公平で、普遍的で、賢明なご判断をされんことを切に願ってやみません。





「原発なくそう!
九州玄海訴訟」
弁護団事務局

8月22日、福島第一原発で廃炉の最難関とされるデブリ取り出し作業に着手しようとしたところ、早々にミスが見つかり中断された。

東電によると中断の原因は、ロボットを格納容器の中に押し込むための円筒状の棒をつなぐ順番が間違っていたとする「作業確認の不足」とされ、運搬搬入から1か月間、現場の状況確認はされないまま、会社間での申し送りすらしていなかったことがわかった。あまりにもお粗末と言える初步的な単純ミスであり、東電のずさんな廃炉工程の一端がうかがい知れる格好となった。

こうした中で翌9月10日、試験的デブリ数グラム（耳かき1杯分）の取り出し作業が再開された。福島第一原発1号機～3号機のデブリは総量で約

880トンにのぼるともいわれている。これを本格的に取り出す計画は検討段階どまりで先がまったくみえない。取り出し方法としては、(1)気中工法、(2)冠水工法、(3)充填固化工法の3つといわれているが、安全に取り出せる保証にはいたっていないのである。

原発事故から13年が経過した今日でも格納容器内の状況もつかめない中で、「(下表の第1期開始から)廃炉まで30～40年」といくら数字をあげたところで実現の見通しはたっていないのである。

ほかの原発の延長稼働、増設にむけた弊害とならないよう焦りを禁じ得ない政府は、度重なるミスを最小限に抑えようとしていることはみえみえではなかろうか。

国が示している廃炉完了までのロードマップ

第1期 (2011年12月～)	第2期 (2013年11月～)	第3期 (2024年9月10日～)	廃炉完了 (2051年～)
★汚染水を浄化処理して処理水にする設備の試運転を開始	★溶け落ちた核燃料(デブリ)の取り出しに使う装置の開発 ★処理水の海洋放出を開始	★2号機でデブリの試験的な取り出し ★デブリの本格的な取り出しへ	

東電の資料をもとに編集部で作成

自由の森学園（埼玉県）が 研修旅行で“玄海原発施設見学”

10月1日、研修旅行生約30名が玄海エネルギーパークを見学。その前日、原告団染谷共同代表暫定代行から約1時間の講和を聞きました。



玄海原発差止め訴訟原告団の染谷さんの話を聞いて

高校2年生 **伊藤 萌桃**

「自分の意見はあくまで一意見です」というスタンスではじめから話してくれたのが、意見を押し付けるのではなく一意見を教えに来てくれているというのが分かってとても嬉しかった。

染谷さんの話ではじめて聞くことが多くて、原発と言っても福島第一原発の事しか今まで学んでいないのに、それだけで原発を知った気になっていたと認識できた。風船のプロジェクトはどんな人で

も分かりやすく拾ったり、見る機会があればそれだけで原発を知るきっかけになって面白いと思った。玄海町から奈良まで飛ぶなら日本にある原発全てで実施したら、風船が届かない地域はないんじゃないかと思ひより危機感を持った。

玄海町の財政などの現状があつて原発があるつていうのを知ってから玄海原発に行けたのは見方を一つ増やして貰ったと思う。

自由の森学園高校教諭 **藤原 敏**

染谷さんの自己紹介の中で、出身高校が東京都墨田区にある都立両国高校の出身と聞いて、私の出身の葛飾区と同じ東京の下町出身の方と知ってまずはビックリしました。

染谷さんの話がとてもわかりやすく、高校生にもしっかりと理解されていました。私にとってもお話の中で改めて玄海原発の問題点を知ることができました。4つある原発の1・2号機は廃炉が決まり、残された3・4号機は過去に故障が続いており、課題を多く抱えたまま再稼働をしている現状だということ。さらに3号機はプルサーマル発電を行っていて、さらに危険性が高い状態で、運転していること。この状態を放置でき

ないと立ち上がった原告団の皆さんがなぜ差止めを求めて裁判に訴えたのか理由がよくわかりました。

私は昨年青森県の六ヶ所村に足を運んで、核燃料の再処理がいまだに全く機能していない現状を見てきました。工場再開の再延長が今年も発表され、政府が進める核燃料サイクルは事実上破綻しています。今後再稼働で新たに出てくる使用済み核燃料がまた増え続けて、ゆくあてのない危険なゴミがまた玄海町に増え続けることになると思うと、暗い気持ちになってしまいました。

高校生たちに原発の問題点を改めて気づかせていただき誠にありがとうございました。

傍聴レポート 玄海訴訟

今回初めて裁判傍聴に参加しました。対馬市長の核ごみ最終処分場文献調査を受け入れ「しない」という決断は、地元の皆さんの地道な活動があってこそです。対馬が、1974年に原子力船「むつ」の修理場所候補地となった経緯は知っていましたが、今回の陳述では、江戸時代までさかのぼり、対馬の鳥獣駆除のエピソードが「国策であってもそれが住民にとってよいものであるのか、未来のためになるのか、徹底的に議論する」という教訓につながっているということも認識できました。「最終処分場反対の前提として原発の稼働停止が不可欠である」という

主張は、私たちの主張そのものです。対馬の核ごみ文献調査受け入れに関しては、私たちも2023年7月に長崎県に対し「被爆県長崎として明確な反対の意思を示す」ことを求める要請を行い、街頭での対馬市長への「ひとこと」集めなど行ってきました。これからも対馬の教訓を忘れず、幅広い方々と連帯して、原発ゼロをめざし、核ごみ問題にも向き合っていきたいと思っています。



川尻 瑠美 (原発ゼロをめざす長崎連絡会)



今後の日程



第49陣追加提訴のご案内

2024年 **12月26日(木)**
13:00 佐賀県弁護士会館集合
※締め切りは12月20日(金)午前

第50陣追加提訴のご案内

2025年 **2月20日(木)**
13:00 佐賀県弁護士会館集合
※締め切りは2月14日(金)午前

第48回裁判のご案内

2025年 **1月31日(金)**
13:30 佐賀県弁護士会館集合
14:00 進行協議
15:00 口頭弁論
模擬裁判・報告集會会場/
佐賀県弁護士会館

第49回裁判のご案内

2025年 **3月14日(金)**
13:30 佐賀県弁護士会館集合
14:00 進行協議
15:00 口頭弁論
模擬裁判・報告集會会場/
佐賀県弁護士会館

発行元/「原発なくそう!九州玄海訴訟」原告団・弁護団
発行責任者/長谷川照
発行日/2024年10月31日

事務局/佐賀中央法律事務所 気付
〒840-0825 佐賀市中央本町1-10 ニュー寺元ビル3階
TEL0952-25-3121 FAX0952-25-3123